

~~~~~

| <b>第3回沼田智秀仏教書籍優秀賞受賞記念講演会</b><br>[Third Meeting] Toshihide Numata Book Prize in Buddhism Special Lecture |                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>テ ー マ</b>                                                                                            | カテゴリー、メンタリティー、個人：仏教学の体に流れる歴史叙述の方法<br>Categories, Mentalities, Individuals: Historiography in a Buddhological Vein                        |
| <b>開催日時</b>                                                                                             | 2018年6月8日(金) 15:00~17:00                                                                                                                 |
| <b>開催場所</b>                                                                                             | 龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室                                                                                                                         |
| <b>司 会</b>                                                                                              | 那須英勝 (龍谷大学文学部教授)                                                                                                                         |
| <b>講 演 者</b>                                                                                            | ジャネット・ギャッツォ博士 (ハーバード大学・神学大学院副院長、ハーシェイ仏教学講座教授)<br>Dr. Janet Gyatso (Hershey Professor of Buddhist Studies, Associate Dean for Faculty and |
| <b>レスポ<br/>デント</b>                                                                                      | 亀山隆彦 (龍谷大学非常勤講師)                                                                                                                         |
| <b>共 催</b>                                                                                              | 龍谷大学世界仏教文化研究センター<br>公益財団法人仏教伝道教会                                                                                                         |
| <b>協 力</b>                                                                                              | 龍谷大学アジア仏教文化研究センター (BARC)                                                                                                                 |
| <b>参加人数</b>                                                                                             | 37名                                                                                                                                      |



会場の様子  
(龍谷大学大宮学舎 西翼2階大会議室)

---

❖ 講演会の概要 ❖

---

沼田智秀仏教書籍優秀賞は、特に西欧における仏教研究のさらなる発展を支援するために、2009年に設立された賞である。毎年審査委員会が開催され、公正な審議の上、英語で執筆された仏教学術書籍の中から優秀な書籍が選定されている。2016年度の受賞者は、*Being Human in a Buddhist World: An Intellectual History of Medicine in Early Modern Tibet*。（『仏教世界で人間であるために：近世チベットにおける医学の知性史』）を上梓したジャネット・ギャッツォ博士（ハーバード大学・神学大学院副院長、ハーシェイ仏教学講座教授）に決定した。ギャッツォ博士は、近世チベットの仏教の専門家でありながら、文化・社会・ジェンダーの問題も視野に入れ、幅広く研究をされている。

2018年6月8日（金）、ギャッツォ博士が「カテゴリー、メンタリティー、個人：仏教学の体に流れる歴史叙述の方法」と題して、受賞記念講演が行われた。チベット医学において用いられている仏教用語と現場の経験主義的な在り方がどのように関係し、またその後には一体何があるかについて考察がなされた。

The Toshihide Numata Book Award in Buddhism was established in 2009 in order to support the further development of the Buddhist studies especially in the Western world. The winning entry for the best academic Buddhist title of the year is selected by an independent committee. The awardee for fiscal year 2016 was Dr. Janet Gyatso, Hershey Professor of Buddhist Studies, Associate Dean for Faculty and Academic Affairs, Harvard Divinity School, and her *Being Human in a Buddhist World: An Intellectual History of Medicine in Early Modern Tibet*. Dr. Gyatso is the scholar of the early modern Tibetan Buddhism who also pays great attention to the issues of the Tibetan culture, society and gender.

On June 8, 2018, Dr. Gyatso held the special lecture whose title was “Categories, Mentalities, Individuals: Historiography in a Buddhological Vein.” In her lecture, Dr. Gyatso explained the relationship between Buddhist terms used in Tibetan medicine and the empiricism of the medical treatment, and also discussed their background.

<講演>

---

テーマ：「カテゴリー、メンタリティー、個人：仏教学の体に流れる歴史叙述の方法」  
“Categories, Mentalities, Individuals: Historiography in a Buddhological Vein”

講演者：ジャネット・ギャッツォ博士（ハーバード大学・神学大学院副院長、ハーシェイ仏教学講座教授）

---



ジャネット・ギャツォ氏

ギャツォ博士は、まず、チベット医学書の『ギュシ』(Gyuzhi) にまつわる論争について述べた。『ギュシ』については、仏陀によって説かれたものなのかという論争がいまだに継続している。そして、ギャツォ博士は『ギュシ』の文章が、仏陀の言葉であることを認める場合、仏教的なテクノロジー、哲学、権威が、果たして医学に何をもたらすかという問いを『仏教世界で人間であるために：近世チベットにおける医学の知性史』で検討したと言う。

ギャツォ博士は、チベット医学は、スピリチュアルな事柄より、経験主義的なデータを重視しようとする傾向があると言う。つまり、医学者が経験的事実を正確に捉えることに関心を持ち、宗教教義的な在り方を取り除こうとしたのは、決して西欧だけではなくたのである。例えば『ギュシ』のどの箇所を見ても、死後の世界や来世についての記述などはない。大体において『ギュシ』の内容は、仏教聖典からではなく、アーユルヴェーダや東アジアの医学、西アジアの医学を組み合わせたものから成っているのだ。

17、18 世紀のチベット医学書の著者たちは、薬用植物(薬種)の記述と図画は、医師が実際に原野で薬用植物を採集するときには、あまり役に立たないことを知っていた。また、病の記述も、実際に患者を診断する際には、しばしば十分なものではないことも分かっていた。つまり一般的なカテゴリーは、特殊な現実を決して正確に記述することはできないのである。

チベットでは、少女の月経に関して「業」(karma) を結び付けて語るという。月経はある特定の年齢で、遺伝、ホルモン、環境などが揃ったときに始まるが、それは私たちが正確に知ることはできない。そのような身体における曖昧さを表現する際に「業」という仏教の言葉が使われるのである。それは、チベットの医学者が生きてきた環境世界に、そのような言葉が手元にあったということを意味する。つまりそれは、仏教の用語と宇宙論が、

---

いかにチベットの生活空間において浸透しているかということを手端的に物語っているのだ。

他にもチベット医学では、人間の脈を診断するための概念として、*cittasantāna*（心相続）という言葉が用いられることがある。この脈を、チベット医学では「男性」「女性」「中性」の三つのタイプに分けるといふ。チベット医学書の著者たちは、ジェンダーと性別の区別を明確にするために、難解な *cittasantāna* という仏教の概念を使用したのである。医者は、*cittasantāna* という用語によって、実際に解剖学的には男性でなくても、その人が「男性的」であることをについて論じるために必要な新しいカテゴリーを示すことができるのである。

『ギュシ』では、人間の心臓の先端は男性は右に、女性は左に傾いていると説かれるが、多くの医師たちは、経験的にこれが真実ではないということを知っている。そこで、チベット医学書の註釈者たちは、何とかこの矛盾を取り除くために、仏教用語や密教の解剖学等を用いて時にアクロバティックに解釈を加えていくのである。タントラの宇宙観では、性別がその理論の中核にあるが、それは明らかにチベットの学者が依っているものである。

ギャッツォ博士は、仏教が社会や文化に与えた影響は、宗教というカテゴリーを超えるものであり、人間の生活と思想に関する幅広い範囲の現象について語る際に、仏教の言葉を用いた便利な言い換え方法が生み出されたと言う。そして、それこそがチベットで医学と仏教の間に起こったことなのである。

---

レスポネント：亀山隆彦氏（龍谷大学非常勤講師）

---

ギャッツォ博士の講演を受けて、龍谷大学非常勤講師の亀山隆彦氏がその内容のまとめとコメントを行った。第一に亀山氏は、ギャッツォ博士の講演内容を以下の五点から総括した。すなわち①主要な問題点、②全体の結論、③理論と方法論に関する準備的考察、④パースペクティブに関する準備的考察、⑤チベット仏教と医学の具体的な比較の五点である。加えて③④について述べる際、仏教学を含む人文学分野におけるギャッツォ博士の業績の意義についても議論を試みた。具体的には博士のチベット仏教・医学を論じる際の方法論と視座に、人類学者クリフォード・ギアーツの「厚い記述」、あるいはクロード・レヴィ・ストロースが主張する「野生の思考」のそれに類似するものがあることを指摘した。

最後に講演と総括の内容を踏まえ、日本仏教の領域から問題提起を行った。チベット医学と同じく日本仏教の周辺にも「和歌陀羅尼」や「和歌灌頂」等、各種仏教語を援用する知的文化が存在するが、それらの理解にもギャッツォ博士の研究が有益である可能性を議論した。

【文責】 龍谷大学世界仏教文化研究センター博士研究員 唐澤太輔  
同リサーチ・アシスタント 亀山隆彦